

「飲食店」倒産動向

飲食店の倒産、過去最多ペース

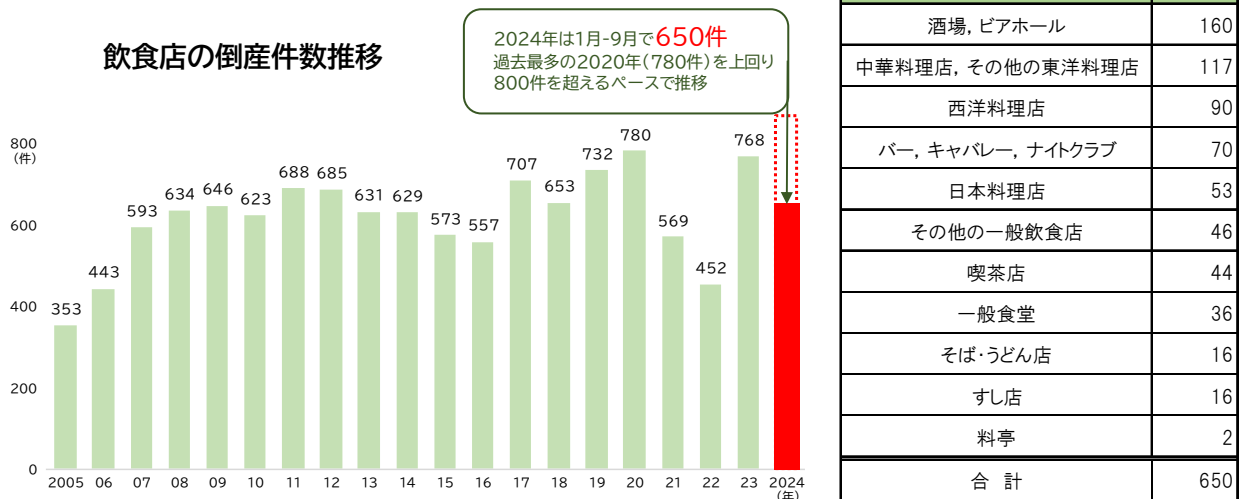
居酒屋、ラーメン店の競争がさらに激化

飲食店の倒産が過去最多ペースで発生している。2024年1-9月の倒産件数は650件となり、前年同期比で16.5%増加。このままのペースで推移すると通年の件数は、過去最多の2020年（780件）を上回って870件前後となる見通しだ。

650件を業態別にみると、居酒屋を主体とする「酒場、ビヤホール」が160件で最も多く、ラーメン店などの「中華料理店、その他の東洋料理店」（117件）、「西洋料理店」（90件）、「バー、キャバレー、ナイトクラブ」（70件）、「日本料理店」（53件）が続いた。深夜時間帯での営業店舗が多い「酒場、ビヤホール」と「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を合わせると230件となり、全体の35.4%を占めた。また、都道府県別では、東京や大阪、兵庫、愛知など大都市圏で増加が目立っており、特に東京と大阪で全体の29.8%を占めた。

負債額最大は、ビヤレストラン、ビヤホールを展開していたアサヒフードクリエイト㈱（東京、7月、特別清算）で約89億9726万円。650件のうち、10億円以上の倒産は5件にとどまった一方、1億円未満の小規模倒産は562件を占めた。

「夫婦で1店舗を経営」といった小規模事業者が多い飲食店業界は、引き続き食材・光熱費の高騰や人材確保・維持のための賃上げなどで収益が圧迫されている。さらに、価格転嫁率（2024年7月調査）は36.0%と、全業種（44.9%）を大きく下回っている。アフターコロナで競争も激化するなか、値上げに踏み切るか否か、中小クラスを中心に倒産や廃業の増加は避けられないとみられる。



株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 阿部 成伸 03-5919-9341 (直通) shigenobu.abe@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。